

平成26年7月24日

イスカンダル・ジャリル氏及び杉野一夫シンガポール日本人会特命顧問に対する外務大臣表彰について

在シンガポール日本国大使館

1. 7月24日、陶芸家イスカンダル・ジャリル氏及び杉野一夫シンガポール日本人会特命顧問に対し、各々の日・シンガポール間の交流促進並びに当地における日本の認知度向上に対する貢献、当地における在留邦人社会への多大なる貢献及び日本とシンガポールとの相互理解の促進への献身を高く評価し、外務大臣表彰が贈られることとなりました。
2. 1972年にコロomboプランの奨学金にて日本へ留学（岐阜県多治見市の陶磁器意匠研究所に留学、陶芸を学ぶ）したイスカンダル・ジャリル氏は、ブルーを基調にした独自のスタイルでシンガポールの陶芸界をリードする作品を次々と生みだしてきました。シンガポールの文化勲章である Cultural Medallion Award を始めとする多数の受賞歴がある同氏はシンガポールを代表する芸術家の一人として尊敬を集めています。同氏は地下鉄タンジョン・パガー駅、チャンギ空港第2ターミナルの壁画等を制作した他、大統領官邸など多くの場所で作品が展示されています。また、次世代の陶芸家の育成にも尽力している同氏は、日本の陶芸技術だけでなく、その背景にある日本のものづくり精神を高く評価しており、そうした技術や精神を伝えるため、過去20年以上に亘り累計約200名の弟子・生徒を日本へ連れて行き、陶芸を始めとする日本文化に触れさせる活動をおこなっています。このように陶芸におけるネットワークを活かして、日シンガポール間の交流並びに当地における日本の認知度を飛躍的に拡大する上で大きな功績を果たしてきました。また、昨年1月には日本大使館のジャパン・クリエイティブ・センターで同氏及び弟子の陶芸展（当地における日・ASEAN 友好協力40周年記念キックオフイベント）を開催しました。
3. 杉野特命顧問は30年に亘りシンガポール日本人会事務局に勤務し、中でも約27年に亘り事務局長として当地在留邦人の福利の向上に貢献すると共に、文化活動やボランティア活動を通じた日・シンガポール間の相互理解及び友好親善の促進へ貢献しました。特に、1998年の日本人会館の落成に貢献すると共に、日本人学校の運営、日本人墓地公園の維持・管理等に多大の貢献をしています。
4. 外務大臣表彰は、我が国と諸外国との友好、親善関係の増進に大きな役割を果たしている個人または団体に対し、その功績をたたえるためのものです。昭和59年にこの表彰が開始されて以来、この外務大臣表彰を受けたシンガポール関係者・団体は本年受賞者を含め16個人・団体です。